

# 研究成果

## 新しい牧草・飼料作物の品種

飼料環境グループ 出口健三郎

(E-mail: deguchi-kenzaburo@hro.or.jp)

### 1. シロクローバ「北海1号」

根釧農試と北海道農研センターとの共同研究により、道東のチモシー主体集約放牧地向けの新しいシロクローバ品種が育成されました。

特徴は以下の通りです。

長所

- ・既存品種の中で最も葉が小さく、チモシーを抑圧しない（写真1および表1,2,図1）。
- ・根釧農試で選抜されたため、越冬性が抜群！（写真2）。

短所

- ・競合力が弱いので採草用には向かない。
- ・マメ科の収量が低い。

このような明確な特徴を持つので、用途は短草条件での放牧利用限定です。

夏から秋に掛けて放牧地でシロクローバが優占して困っている生産者の方に特にお勧めです。種子の流通は最短で5年後とまだ時間はかかりますが、ご期待下さい。

表1 混播時マメ科率  
(乾物ベース%)

時期	北海1号	タホラ
春季	24	48
夏季	32	57
秋季	6	52

2)根釧3年目の早春=1番草、夏季=7月中旬、晩秋=9月利用時



写真1. チモシーとの混播生育状況(左:「北海1号」、右:「タホラ」)



写真2. 単播での越冬後の状況(左:「北海1号」、右:「タホラ」)

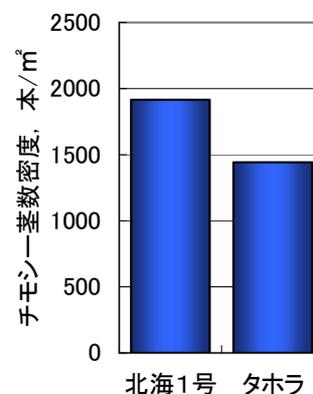


図1 混播試験におけるチモシー茎数

## 2. イタリアンライグラス

イタリアンライグラスは、初期生育と再生力が旺盛で嗜好性も良いのですが、越冬性が極めて悪いため、これまで道内ではほとんど使われていなかった草種です。しかし近年、その特性を利用し、リードカナリーグラス等の地下茎型雑草を駆逐する栽培法が開発されました。この技術は、リードカナリーグラスなどが優占した草地に春にロータリハローで丁寧に表層攪拌してからイタリアンライグラス播種し、年3回刈取りを行うことにより地下茎型雑草を衰退させるというものです。1ヶ年でもかなり雑草が衰退しますが、2ヶ年繰り返すことでほぼ駆逐することが出来ます。

この技術に適応できる北海道優良品種は、これまで、「ビリオン」と「マンモスB」しかありませんでしたが、このたび、新たに3つの品種が北海道優良品種に認定されました。以下に各品種の特徴を記載します。

「Primora」…1番草が多収で、雑草防除能力は並以上です(図1,2)。生育は「ビリオン」と「マンモスB」の中間的な特徴を有するので(表1)、今回提案する品種の中では一番オーソドックスな品種と言えます。

「タチサカエ」…乾物収量は1番草では並ですが、3番草が多収で、年合計でも多収です(図1)。乾物率がやや低い点が気になりますが、耐

倒伏性、雑草防除能力に優れる品種です(表1、図2)。

「ヒタチヒカリ」…唯一の晩生品種で出穂が他の品種より1週間程度遅く(表1)、収量は出穂が遅い分、1番草で多収です(図1)。雑草防除能力は最も高いのですが(図2)、やや乾物率が低いことと、出穂茎が非常に少ないので(表1)、刈取りは生育日数を目安にすること(1番草は55日、2番草30日、3番草45日)に注意が必要です。

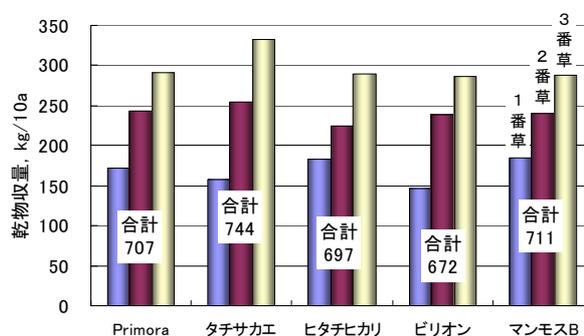


図1 番草別乾物収量(3ヶ年, 5場所平均)

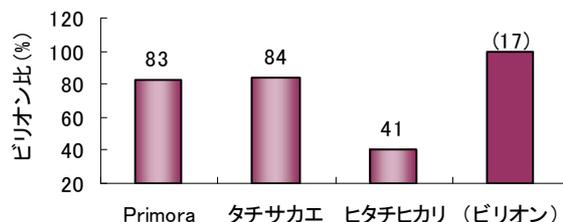


図2 3番草収穫時の地下茎型イネ科雑草収量のプリオン比(3ヶ年平均)

表1 全道5場所でのイタリアンライグラス品種生育特性調査結果(3ヶ年平均)

形質	Primora	タチサカエ	ヒタチヒカリ	ビリオン(標準)	マンモスB(比較)
出穂始 <sup>1)</sup>	7/ 9 (46)	7/11(48)	7/17(56)	7/10 (47)	7/ 7 (44)
出穂程度 <sup>1)</sup>	7.1	4.4	2.8	6.2	7.6
倒伏程度 <sup>2)</sup>	3.2	1.3	1.0	1.5	3.1
冠さび病程度 <sup>2)</sup>	2.9	2.7	2.4	2.9	2.9
葉腐病程度	1.9	2.0	2.8	1.6	1.8
草丈, cm	84	81	70	83	85
乾物率, %	16.4	15.0	14.5	15.6	16.6
越冬後再生率 <sup>3)</sup>	11	21	27	13	9

1)月/日。( )内は生育日数。ヒタチヒカリは4場所、他は5場所の平均 2)1:無または極少~9:極多。

3)1:無または極微~9:甚。

4)全場所2年間平均、%